

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成23年度実績評価）

事業名	問題を抱える少年の立ち直り支援の充実					掲載ページ
						111
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度予算額	政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局
		千円	千円	施策名	青少年の健全育成	担当課
						子ども家庭局
						青少年課

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価	
目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	少年支援室へ通所する等の課題を抱える少年の立ち直り・自立のきっかけとするため、ボランティア活動をはじめとした様々な社会体験の場を提供します。特に、青少年施設等における野外体験プログラムの提供や、課題を抱える少年が体験活動を行うための新たな受け入れ先の開拓、青少年の立ち直り・自立支援のための関係機関等とのネットワークの構築等に取り組みます。		活動実績	活動結果は下記のとおりです。		
活動計画	ボランティアプログラム提供等の充実 親子ふれあい合宿の実施 関係機関等との連携強化						
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)	【活動の状況】		
	立ち直り・自立支援のためのボランティア活動者数	85 人	-	171 人	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	家庭裁判所や子ども総合センター、子ども・若者応援センターYELL等との連携により、青少年施設等でボランティア活動に取り組んだ青少年の延べ人数を指標とし、事業の実施状況を把握します。 (最終目標と最終年度)						
	親子ふれあい合宿参加者数	4 組	-	13 組	順調 やや遅れ 遅れ	順調	
保護観察所等との連携により、親子ふれあい合宿に参加した親子の数(延べ)を指標とし、事業の実施状況を把握します。 (最終目標と最終年度)							

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	家庭裁判所等からの相談や依頼は少なくなっていますが、子ども・若者センターYELL等からの相談や依頼が増えて、ボランティア活動者数は倍増しています。また、竹林保全活動や海岸清掃、高齢者施設や親子ふれあいルーム等の受け入れ先からの温かい理解と協力を得て、課題を抱える青少年の立ち直り・自立支援に資することができています。また、親子ふれあい合宿についても、青少年施設等を利用して実施し、親子がふれあう機会等を提供することにより、親子の絆を深めることができました。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	本事業は、非行やひきこもり等の課題を抱える青少年の増加が社会問題となっており、適時性のある事業です。これを青少年施設等との連携により、効率的に事業を実施することができています。

【Action】 目的実現のために平成24年度以降に実施すること
子ども・若者応援センターYELLや若者サポートステーション、家庭裁判所等の関係機関との連携を継続して強化します。また、新たに受け入れに協力いただいている施設やボランティア団体等との連携を継続して、課題を抱える青少年のニーズに応えられるプログラムの開発と提供を行います。また、親子ふれあい合宿については、親子の絆を深めることを目的に、実施回数を増やすとともに、宿泊を伴う合宿についても実施を検討します。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成23年度実績評価）

事業名	少年支援室の拡充・運営						掲載ページ		
							111		
コスト	事業費	平成23年度執行額		平成24年度予算額		政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局	子ども家庭局
		10,529	千円	13,178	千円	施策名	青少年の健全育成	担当課	子ども総合センター

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価	
目的	何を（誰を）どのような状態にしたいのか	現在の5少年支援室を、対象とする少年の状態に応じた支援活動ができるよう充実を図り、その機能を強化します。				活動実績	下記の活動のほかに、学校訪問を積極的にに行い、学校との連携を深めながら子どもの支援に努めました。また、広報紙の紙面に工夫を加え、啓発活動を進めました。
活動計画	不登校や非行等の少年を通所させ、カウンセリングや集団活動、自学自習の援助を行いながら、少年の学校や社会復帰に向けた取り組みを支援します。また、少年の健全育成を図るために街頭補導や3少年支援室で各20回、青少年を有害環境から守るため環境浄化活動として、市内全部のコンビニやカラオケボックス、インターネットカフェ等への立ち入り検査を実施します。						
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）		前年度実績	目標	実績（達成率）	【活動の状況】	
	面接・電話相談対応件数		41,307 件	-	47,388 件	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	不登校や非行相談等への対応や相談内容に応じた適切な支援を行うことが本事業の内容であることから、活動指標として「面接・電話相談対応件数」を設定しました。 （最終目標と最終年度）						
						順調	順調
					やや遅れ		
					遅れ		

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	不登校、非行等の少年の生活習慣の確立、自学自習の援助やその家庭への援助を行いました。3少年支援室（かなた・わかその・くろさき）では、年間37,987件の相談に対応し、2少年支援室（あいおい・あだち）では、心因性の不登校児童生徒の学校復帰へ向けて9,401件の相談に対応しました。また、少年補導指導員や少年相談員によるゲームセンター等の定期的巡回補導、青少年を有害環境から守るための環境浄化活動、少年非行防止の啓発活動を行い、さらにコンビニやカラオケボックス等へ616件の立ち入り調査を実施しました。 非行等の少年や不登校児童生徒・発達障害児の増加に伴い、学校だけでは対応できない児童生徒が通所しています。また養育・養護、育成相談にも積極的に対応するなど、事業目的は十分果たしており、有効性は高いといえます。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	最小の経費で最大の効果を上げるべく、計画的かつ効率的な予算執行に努めています。

【Action】 目的実現のために平成24年度以降に実施すること
<p>本事業は、施策に対する有効性も高く、不登校児童対策や非行等から子どもを守る対策として、重要な事業です。今後も目標の達成に向けて、着実な取組みを進めていくことが重要です。また、少年支援室をより利用しやすい状況にするために、少年支援室の機能に応じた名称変更や拡充等の検討を進めます。</p> <p>平成24年度は、くろさき少年支援室のコムシティ入居に向けて準備するとともに、その他の少年支援室についても、名称変更や拡充・仮移転等、運営の検討を続けます。</p>

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成23年度実績評価）

事業名	メンタルフレンド派遣事業						掲載ページ		
							111		
コスト	事業費	平成23年度執行額		平成24年度予算額		政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局	子ども家庭局
		637	千円	1,453	千円	施策名	青少年の健全育成	担当課	子ども総合センター

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価	
目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか	メンタルフレンドをひきこもり児童等の家庭等に派遣し、児童の心の健康を回復させるとともに、対人関係の向上や生活リズムの改善などを目指します。また、被虐待児の家庭を訪問し、児童の心理的サポートや、児童とその家庭を経過観察を行い、虐待の再発防止や早期発見を目指します。			活動実績	活動結果は下記のとおりです。	
活動計画							
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）	【活動の状況】		
	メンタルフレンド派遣実績	76 件	-	62 件	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	メンタルフレンドの派遣件数の増加が、児童の心の健康回復や生活リズムの改善等に寄与することから、活動指標として掲げました。 （最終目標と最終年度）					やや遅れ	
					順調	やや遅れ	
	（最終目標と最終年度）			遅れ	遅れ		

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	メンタルフレンドの募集を二度行うなどメンタルフレンドの確保につとめました。被虐待・ひきこもり等の児童に対して、一定の研修を積んだ資質と意欲のあるメンタルフレンドを派遣することで当該児童とのふれあいを通じて、心の健康改善や家庭環境の再構築を支援することができ、有効性は高いと考えます。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	最小の経費で最大の効果をあげるべく、計画的かつ効率的な予算執行に努めて、運営しています。

【Action】 目的実現のために平成24年度以降に実施すること
本事業は施策に対する有効性も高く、青少年の健全育成を図るうえにおいて、今後も着実な取組みを進めていくことが必要だと考えています。利用実績が低迷している状況のなか、職員への周知を重ねるとともに利用が適切と思われる児童の担当者への打診をおこなうことで利用促進を図ります。また、様々なニーズに対応できるようメンタルフレンドの確保に努め、その充実を図ります。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成23年度実績評価）

事業名	ひきこもり児童宿泊等指導事業						掲載ページ		
							111		
コスト	事業費	平成23年度執行額		平成24年度予算額		政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局	子ども家庭局
		2,634	千円	1,866	千円	施策名	青少年の健全育成	担当課	子ども総合センター

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価	
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	不登校やひきこもり状態にある児童を対象に、通所による陶芸教室や青少年自然の家での宿泊プログラム等を実施し、社会適応力、対人関係能力、精神的安定及びストレスの解消等を図ります。		活動実績	陶芸教室については毎月1回、年間で12回実施しました。一方、前年度まで、5少年支援室が合同で年間2回実施していたバスを利用した合同事業をやめ、各少年支援室独自で2回ずつ、計10回のバス利用行事としました。また、バスを利用しない活動21回もカウントするようにしたため、実施回数が増加しました。以前と比較して、コミュニケーション能力を向上させる機会がより増えました。		
活動計画	不登校児童等を対象にした体験型教室を実施します。						
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)		前年度実績	目標	実績(達成率)	【活動の状況】	
	事業実施回数		14 回	-	43 回	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	本事業は、児童に社会適応力を身につけさせるため、陶芸教室や宿泊体験プログラム等の中で、職員がマンツーマンで接し、行動観察を行い指導・援助を行うもので、事業の実施回数が事業目的に直結することから、活動指標として掲げました。 (最終目標と最終年度)					大変順調	
					順調		
(最終目標と最終年度)				やや遅れ			
				遅れ			

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	今年度は、陶芸教室、集団活動宿泊体験プログラム等、合わせて15回実施し、不登校やひきこもり、非行や発達障害等の児童に対して、社会適応力や対人関係能力等の向上に努めました。有効性は高いと考えます。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	最小の経費で最大の効果を上げるべく、計画的かつ効率的な予算執行に努めています。

【Action】 目的実現のために平成24年度以降に実施すること
<p>本事業は、施策に対する有効性も高く、不登校児童対策や非行等の児童のスキル向上の場として、重要な事業です。今後も目標の達成に向けて、着実な取り組みを進めていくことが重要です。</p> <p>非行や不登校、発達障害児の増加に伴い、学校だけでは対応できない児童生徒のスキル向上の場として社会適応力を身につけさせるとともに、その家族支援も継続して実施します。</p>

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成23年度実績評価）

事業名	スクールカウンセラーの配置						掲載ページ		
							112		
コスト	事業費	平成23年度執行額		平成24年度予算額		政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局	教育委員会
		133,645	千円	136,044	千円	施策名	青少年の健全育成	担当課	指導第二課

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価		
目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか	不登校やいじめ等の児童生徒及び保護者への対応には、小・中学校等におけるカウンセリング等の機能の充実を図ることが重要な課題となっており、教育相談に関する高度で専門的な知識・経験を有する臨床心理士等の「心の専門家」をスクールカウンセラーとして、すべての中学校に配置および小学校への派遣を行い、生徒指導上の諸問題の解決を図ります。				活動実績	活動結果は下記のとおりです。	
活動計画	臨床心理士等の「心の専門家」をスクールカウンセラーとして、すべての中学校に配置および小学校への派遣を行い、生徒指導上の諸問題の解決を図ります。 児童生徒の相談件数は、年々増加して相談内容も多様化してきており、また小・中連携の強化を目指すためにも、小学校へのスクールカウンセラーの派遣の充実を図ります。							
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）		前年度実績	目標	実績（達成率）	【活動の状況】		
	スクールカウンセラーの配置及び派遣		62 校	62 校	62 校 100.0 %	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	教育相談に関する高度で専門的な知識・経験を有する臨床心理士等の「心の専門家」をスクールカウンセラーとして、すべての中学校に配置および小学校への派遣を行い、生徒指導上の諸問題の解決を図ります。 （最終目標と最終年度）							
	スクールカウンセラーへの相談件数		22,294 件	- 件	26,290 件	順調 やや遅れ 遅れ	順調	
相談件数は年々増加し、相談内容も多様化しています。児童生徒及び保護者の「心のよりどころ」となっています。 （最終目標と最終年度）								

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	活動や成果は予定通りでした。 スクールカウンセラーの全中学校への配置および小学校への派遣を継続的に行いました。教育相談に関する高度で専門的な知識・経験を有する「心の専門家」として、生徒指導上の諸問題の解決改善に貢献しました。 児童生徒の「心のよりどころ」となっています。また教員のカウンセリングスキルの向上にも貢献しています。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	各中学校へのスクールカウンセラーの配置と小学校への派遣の見直しを行い、効率的な執行ができました。

【Action】 目的実現のために平成24年度以降に実施すること
児童生徒の相談内容も進路・学習・友人関係・部活動等多様化しており、また、小中連携の強化を目指すためにも、小学校へのスクールカウンセラーの派遣の充実が必要です。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成23年度実績評価）

事業名	スクールソーシャルワーカー活用事業						掲載ページ		
							112		
コスト	事業費	平成23年度執行額		平成24年度予算額		政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局	教育委員会
		18,572	千円	28,000	千円	施策名	青少年の健全育成	担当課	指導第二課

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価		
目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか	不登校、いじめ、児童虐待など児童生徒の問題行動等の解消のため、社会福祉士や精神保健福祉士の資格を有し、専門的な知識を有するスクールソーシャルワーカーを教育委員会に配置して、児童生徒への直接的な働きかけとともに家庭環境への働きかけなど、福祉の視点から支援活動を行います。				活動実績	活動結果は下記のとおりです。	
活動計画	児童生徒への直接的な働きかけとともに家庭環境への働きかけなど、福祉の視点による積極的な支援活動を継続して実施します。							
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）		前年度実績	目標	実績（達成率）	【活動の状況】		
	スクールソーシャルワーカー設置状況		4 人	4 人	4 人 100.0 %	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	できるだけ早期に各区毎にスクールソーシャルワーカーの配置を実施します。 (最終目標と最終年度) H25年度 8人							
	学校訪問、家庭訪問の強化		3,246 回	-	3,934 回	順調 やや遅れ 遅れ	大変順調	
学校訪問、家庭訪問を強化し、児童生徒への直接的な働きかけを行います。 (最終目標と最終年度)								

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	・不登校や虐待等の問題のある児童生徒225人に対応し、そのうち64人を解決・好転しました。 ・学校への訪問、電話などの働きかけは、昨年度2,164回から2,556回と増加しました。 また、家庭訪問は1,367回、関係機関への訪問は1,676回といずれも昨年度を上回る活動を行っています。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	スクールソーシャルワーカー4人で225人の児童生徒を支援しています。社会福祉士や精神保健福祉士など専門性の高い人材が対応することで、適切で効果的な支援が行われています。

【Action】 目的実現のために平成24年度以降に実施すること
・平成24年度に、スクールソーシャルワーカーを6人体制とし、平成25年度には8名体制とする予定です。一人のスクールソーシャルワーカーがひとつの区を担当することやスクールソーシャルワーカーのうち一人をスーパーバイザーとして配置することにより、体制の充実を図っていきます。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成23年度実績評価）

事業名	不登校・いじめ対策の充実						掲載ページ
							112
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度予算額	政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局	教育委員会
		47,816 千円	49,534 千円	施策名	青少年の健全育成	担当課	指導第二課

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価	
目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか	不登校、いじめとも児童生徒にかかわる最重要課題であることから、事案の早期発見・早期解決や、社会性の育成を含む多様な支援を行うことで問題解決に取り組みます。			活動実績	積極的な取り組みにより、いじめ件数は平成19年度から、不登校数は平成21年度から連続して減少しています。	
活動計画		中1ギャップが顕著であり、その要因を分析すると共に、小中連携を含め、きめ細かな対応により、不登校児童生徒数の減少に努めます。 いじめの認知件数は減少傾向にあるが、教員のいじめに対する意識の希薄化を招くことのないよう、生徒指導主事・主任会議等において、継続的な取組、啓発に努めます。					
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）	【活動の状況】		
	不登校児童生徒数 不登校の解決を図る取組の一環として、不登校児童生徒教育キャンプを実施しました。また、不登校対策推進協議会において、不登校解消のための学校・家庭・地域社会の役割と連携について協議し、特に中1ギャップの解消のため、全市的な小中連携の必要性を協議します。 （最終目標と最終年度）H25年度 750人	799 人	780 人	791 人 98.6 %	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック 順調	
	いじめの認知件数 教育相談活動や心の相談アンケート等の実施により、校内でのいじめの早期発見に努めました。また、スクールカウンセラーの積極的な活用により、いじめの早期発見・解決に努めます。 （最終目標と最終年度）H25年度 120人	132 人	135 人	103 人 131.1 %	順調 やや遅れ 遅れ		

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	不登校対策推進協議会において、中1ギャップ解消のための施策等について協議、検討しました。またいじめの未然防止・早期発見対策として、全小中学校において教育相談やアンケート等の実施に努めました。 これらの取組みの結果、平成23年度は前年度に比べ不登校数およびいじめ件数が減少しました。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	不登校対策推進協議会、療育キャンプ等について経費の適切で効果的な執行に努めました。

【Action】 目的実現のために平成24年度以降に実施すること
不登校数は、全体では減少しているが小学校は増加している。中1ギャップ等不登校対策は重要な課題であり、小中連携を含め、よりきめ細かな対応により不登校児童生徒数の減少に努めます。 いじめの認知件数は減少しているが、「いじめはどの子どもにも、どの学校にも起こりうるもの」であり、「いじめは人間として絶対に許されない」という強い認識に立って、早期発見・早期対応に向けた取組みおよび啓発に努めます。